

国際交流基金日本語国際センター 第18回海外日本語教育研究会
「JF日本語教育スタンダード」を活用した評価
- その実際と課題 -

日本語国際センターの ハンネイティブ日本語教師研修における 評価デザイン： 多国籍短期研修の場合



JAPAN FOUNDATION

独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター
専任講師

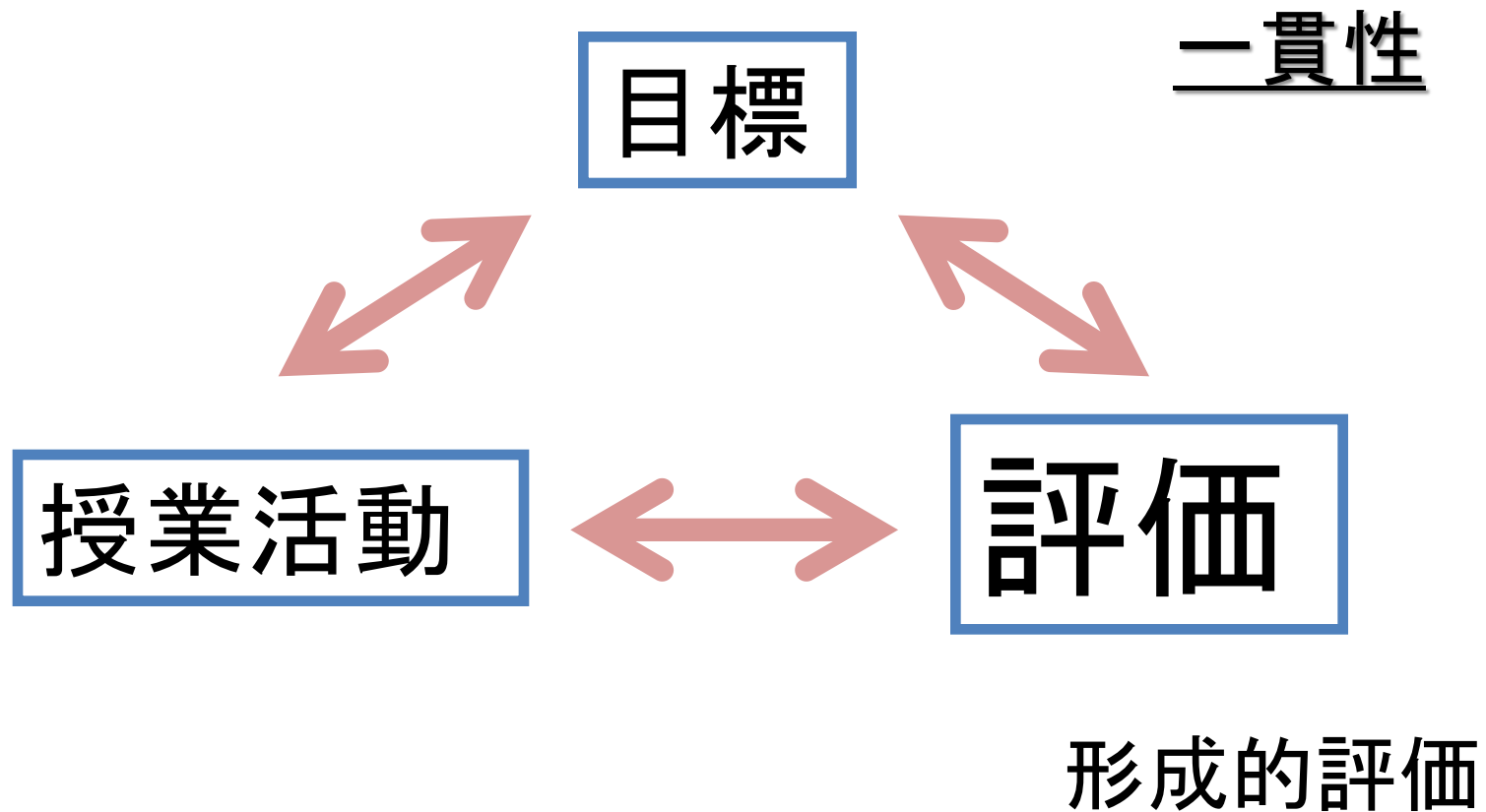
古川 嘉子 ・ 根津 誠 ・ 白井 桂

内容

1. JF日本語教育スタンダードの概要
2. 多国籍短期研修の評価(全体)
3. 自己評価チェックリスト
4. パフォーマンス評価 一口頭発表の評価一
5. 成果と課題

1. JF日本語教育スタンダードの 概要

評価デザインとは



質の高い評価を行うために

- 妥当性を高めること
- 信頼性・客観性を高めること
- 真正性を高めること
- 自律的学習能力を高めるための自己評価を取り入れること

JF日本語教育スタンダードを利用した
評価の質の向上

JF日本語教育スタンダード (以下JFスタンダード、JFS)とは

JFSは、日本語の教え方、学び方、学習成果の
評価のし方を考えるためのツール

JFSという「共通のことば」「共通のものさし」を使う
ことによって、日本語で何がどれだけできるかとい
う熟達度がわかる

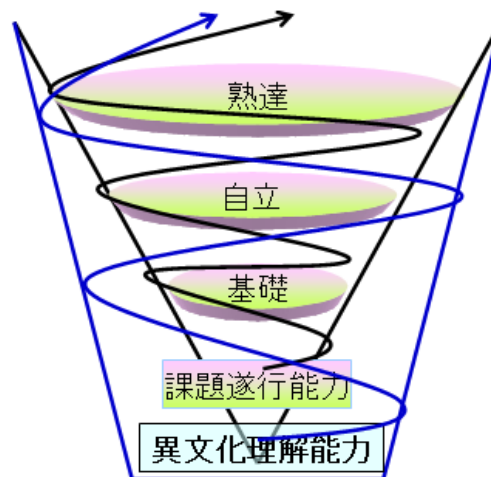
コースデザイン、教材開発、試験作成などにも活
用できる

JF日本語教育スタンダードの理念

「相互理解のための日本語」

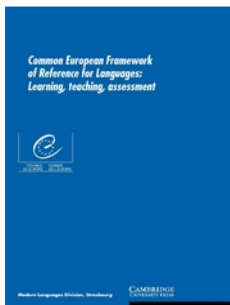
課題遂行能力

日本語を使って
何がどのように
できるかという能力



異文化理解能力

他者の文化を
理解し尊重する能力



JFスタンダードが参考にした ヨーロッパの取り組み



- JFスタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤であるCEFRの考え方を基礎にしている
- CEFRとは、Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessmentの略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組み
- CEFRは2001年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く注目され、各言語教育で実際に利用されている
- JFスタンダードを用いることにより、日本語の熟達度をCEFRに準じて知ることができる

JF日本語教育スタンダード

JF Standard for Japanese-Language Education

JF日本語教育スタンダードは、
日本語の教え方、学び方、学習成果の
評価のし方を考えるためのツールです。



JF日本語教育スタンダード 2010

JF日本語教育スタンダード 2010
利用ガイドブック

JF日本語教育スタンダード 2010

JF日本語教育スタンダード 2010

お知らせ

[お知らせ一覧](#)

- 2012/10/01 [CEFR Can-doの和訳が新しくなりました\(「みんなの「Can-do」サイト」\)](#)
- 2012/08/15 [JFスタンダードと日本語能力試験の連関調査報告を掲載](#)
- 2012/08/13 [資料ページを更新しました！](#)
- 2012/07/25 [資料ページを更新しました！](#)
- 2012/07/19 [JFスタンダード第二版を発行しました！](#)



JF日本語教育 スタンダードとは

JF日本語教育スタンダードをご活用いただく前に、お読みください。



みんなの「Can-do」サイト

「Can-do」とは、日本語で何がどれだけできるかを「～できる」という形式で示した文です。



活用事例

2012/07/04 [JF日本語教育スタンダードを活用した事例](#)
ローマ日本文化会館での活用事例をご紹介します。
オーストラリア

JF日本語教育スタンダードの木

産出

受容

やりとり

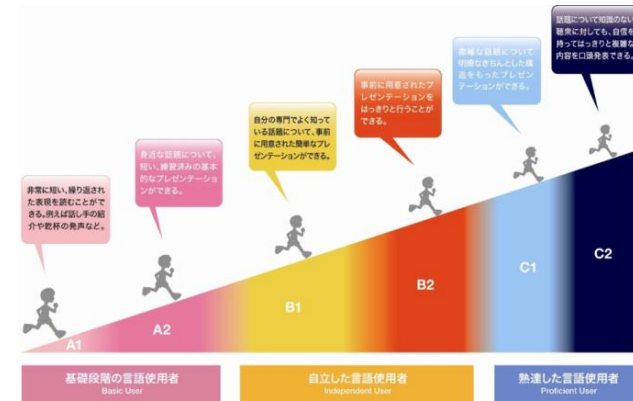
コミュニケーション言語能力を使って、
さまざまなコミュニケーション言語活動
を行うことができる

言語
構造的
能力

社会言語
能力

語用能力

6つのレベル(資料1)



C 熟達した言語使用者
Proficient User

C2

C1

B 自立した言語使用者
Independent User

B2

B1

A 基礎段階の言語使用者
Basic User

A2

A1

~~学習時間
知っている単語や
漢字の数
文法の内容~~

このレベルでは
どんなことが
どれぐらい
できるか
(Can-do)

みんなの「Can-do」サイトで提供中のCan-do

みんなの
Can-do サイト

抽象的で、具体的な
使用場面をイメージ
しにくい...

15のトピック

CEFR Can-do

活 動

テキスト

方略

能力

JF Can-do

活 動

日本語の使用場面を想定し
日本語での具体的な言語
活動を例示

A1, A2, B1, B2を提供中

493 Can-do



342 Can-do

各現場で独自に作成した「Can-do」
MY Can-do

活動と能力の関連性

産出(話す)「講演やプレゼンテーションをする」の例:

自己評価チェックリスト



活動

Can-do

産出 ①⑥講演やプレゼンテーションをする

パフォーマンス評価
での利用



能力

Can-do

言語構造的な能力

- (42) 使用語彙領域
- (43) 語彙の使いこなし
- (44) 文法的正確さ
- (45) 音素の把握

社会言語能力

- (47) 社会言語的な適切さ

語用能力

- (50) 話題の展開
- (51) 一貫性と結束性
- (52) 話しことばの流暢さ

「JFスタンダード」のポートフォリオ

【相互理解のための日本語】 課題遂行能力・異文化理解能力



評価表

教師が目標に合わせて作成する

- ・ 自己評価チェックリスト
- ・ 学習活動の評価基準・評価シート
- ・ 成績表や修了証明書



言語的・文化的 体験の記録

学習者が自分の言語的・文化的体験などを記録する

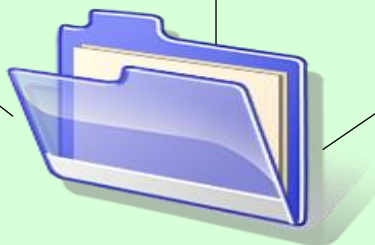
- ・ 体験と学びの記録シート
- ・ 学習の計画・ふり返り



学習の成果

学習者がコースの目標や自己目標に沿って学習の成果を集める

- ・ 作文、スピーチ等の音声資料、テスト、プロジェクトの成果など

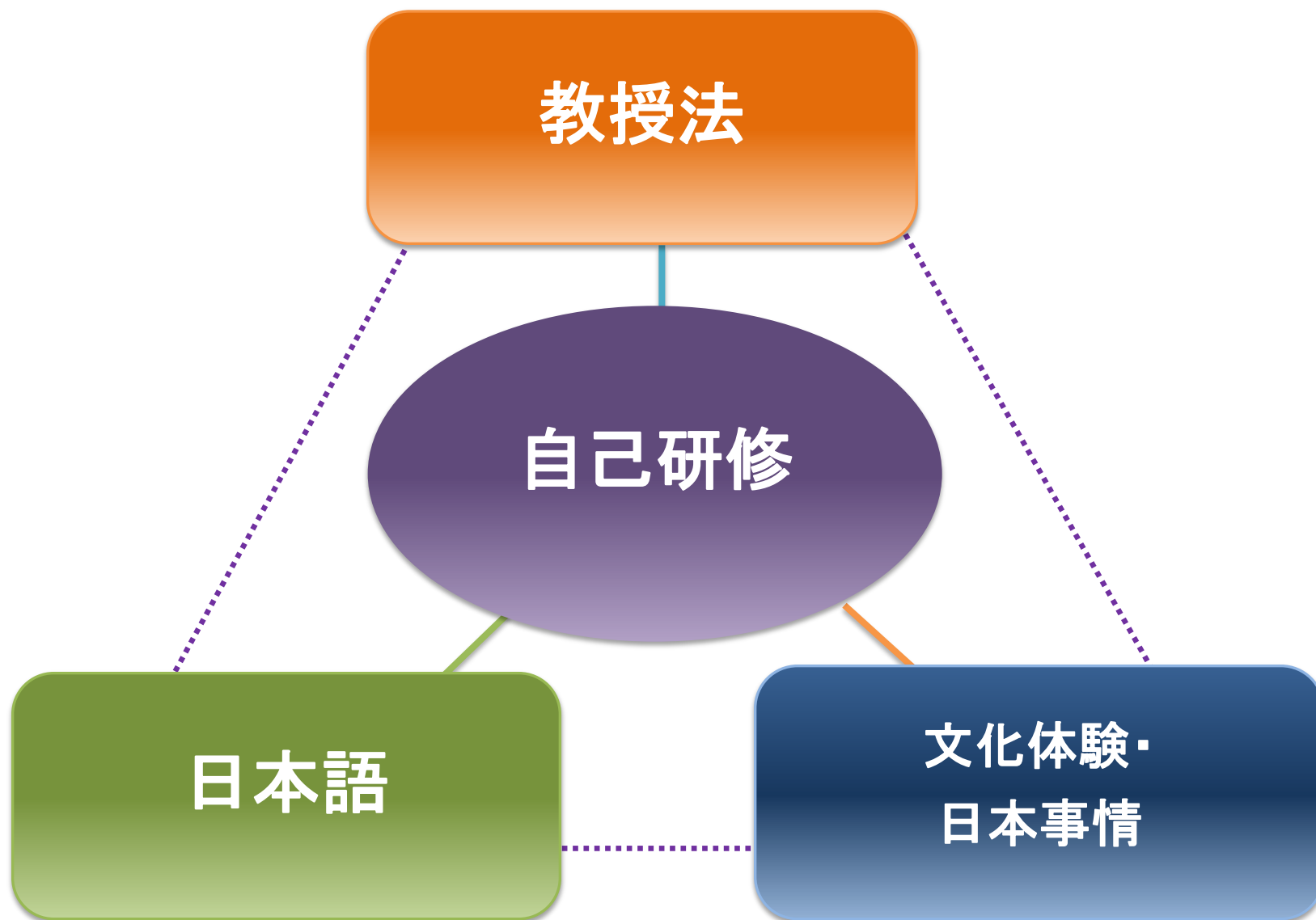


2. 多国籍短期研修での評価

多国籍短期研修(2ヶ月)とは

- 国際交流基金日本語国際センター
海外日本語教師短期研修
- 教授経験2年以上の非母語話者日本語教師
- 春(年少者教育) 夏(全ての機関)
冬(高等教育、一般講座)
- 年間 20数カ国 130名程度
- 研修開始時にプレースメントテストを実施
筆記: 読解・文法、聴解
会話: ロールプレイ

多国籍短期研修の目標



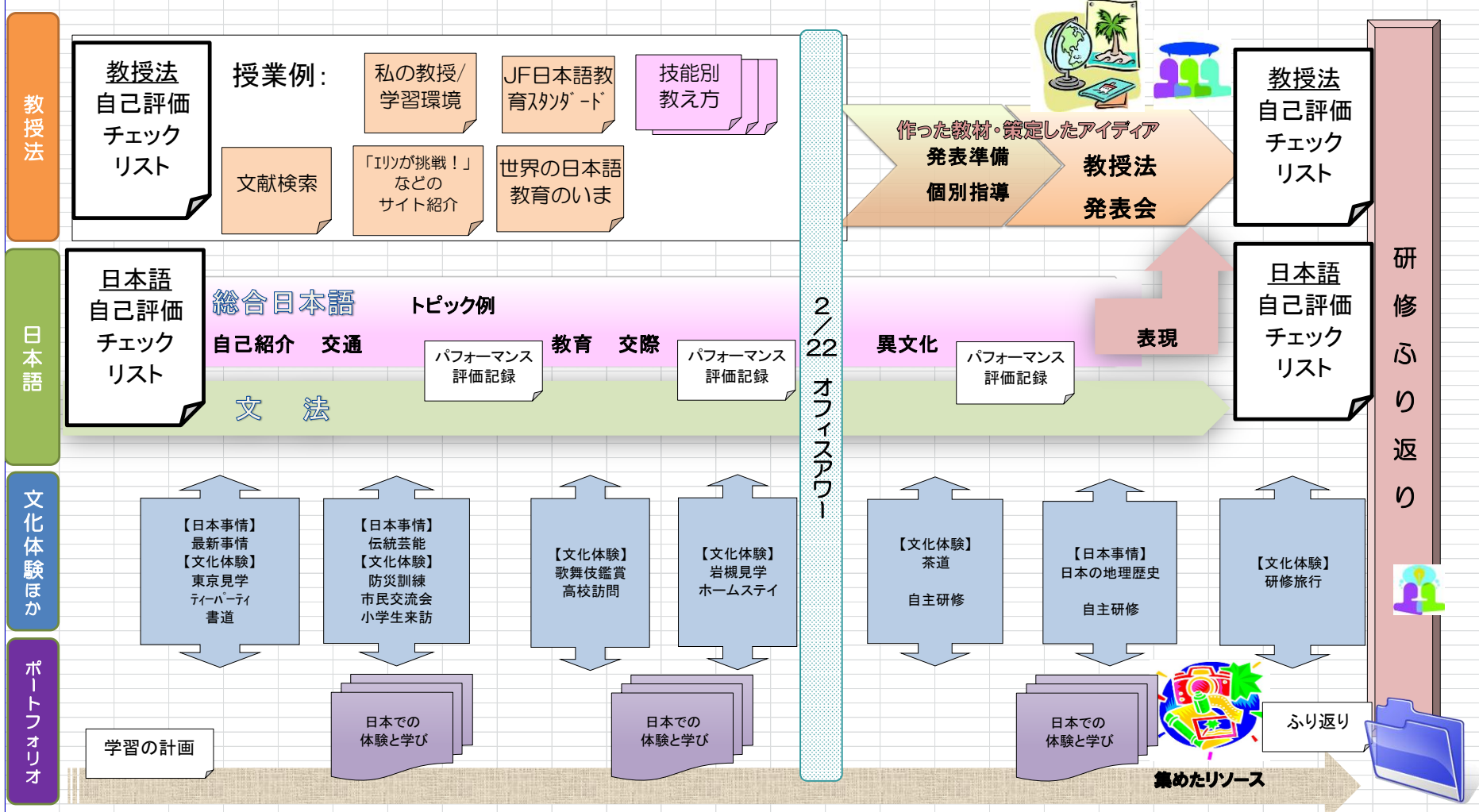
短期研修の全体マップ

2012短期研修（冬期）全体マップ

研修の目標

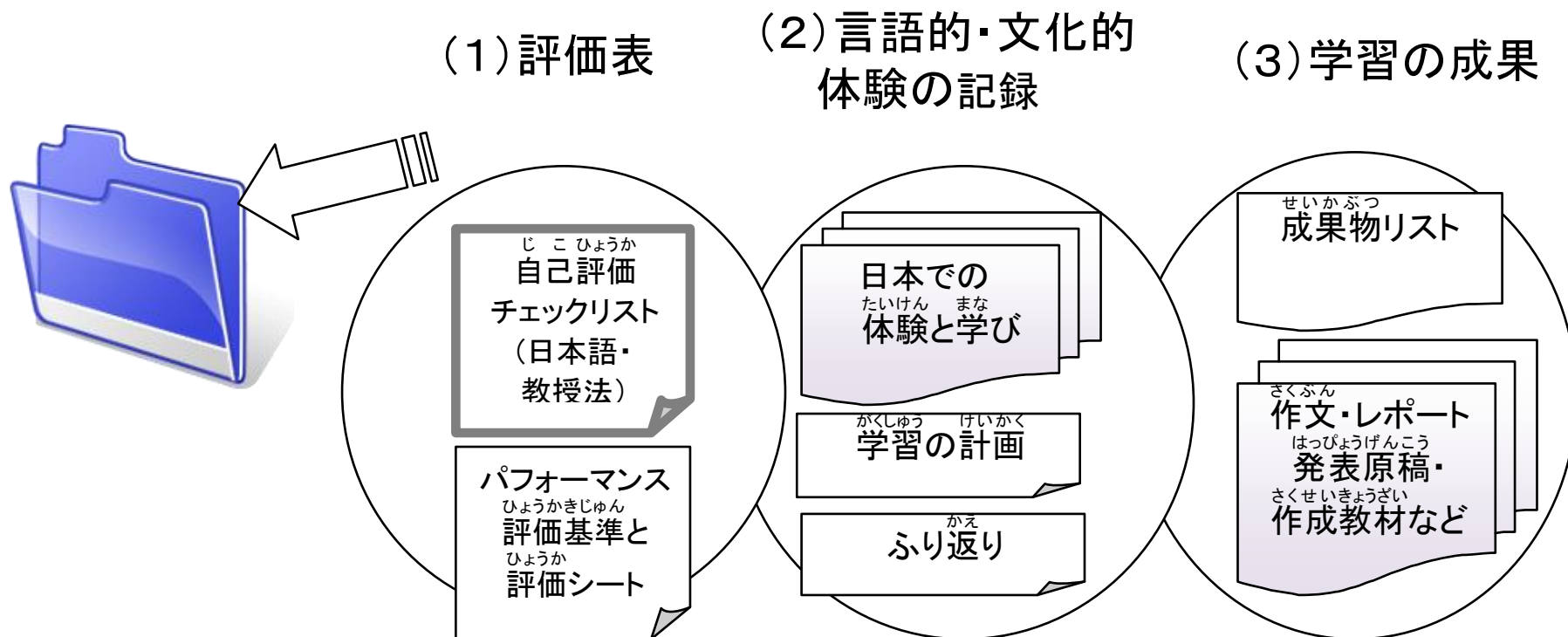
- 教授法や教材に関する情報や知識を整理する。他の教師との協働の中で、新しい視点や方法などの活用の仕方を考える。自身の教授活動をふり振り返り改善する。【教授法】
- 日本語の知識を整理する。日本語運用力の向上を図る。【日本語】
- 日本の社会や文化を実際に体験し、日本に対する理解を深める。他者の文化を理解し尊重できるような多文化理解能力を養成する。【日本事情・文化体験プログラム】

⇒ 研修成果を帰国後も発展させ、教育上の問題解決に取り組み自身の授業を改善できる力を養成する。



うらわポートフォリオ

目標に基づく多様な経験や学びを記録し、
評価する



開始時 「学習の計画」

最後:「ふり返り」「成果物」

研修のはじめ

学習の計画

研修参加者番号 _____ クラス _____

(1)「日本語自己評価チェックリスト」と「教授法自己評価チェックリスト」を使って、“今”の日本語と教授法の能力について記録しましょう。

(2) 研修中に「やってみたいこと」を書きましょう。

①	②	③	④	⑤	⑥

体験できたこと
(研修の終わりにチェック)

たとえば...

おいしいラーメンが
食べたい!

日本の若者文化に
ついて調べたい!

敬語についてもっと
勉強したい!

東京スカイツリーの
写真が撮りたい!

講師からの一言

学習の計画

研修の終わり

振り返り

2013年 ____月 ____日

研修参加者番号 _____ クラス _____ 名前: _____

(1)「日本語自己評価チェックリスト」と「教授法自己評価チェックリスト」を使って、“今”の日本語と教授法の能力について記録しましょう。

(2) 研修のはじめに「学習の計画」で書いた「研修中にやってみたいこと」の中で、実際に体験できたことをチェックしましょう。

(3)「もっと知りたいこと」、「新

① _____

その理由 _____

② _____

その理由 _____

③ _____

その理由 _____

講師からの一言

ふり返り

2012年 ____月 ____日

研修参加者番号 _____ クラス _____ 名前: _____

成果物

* 研修の成果がよく分かるものを集めましょう。ここに記録しましょう。

(1) 日本語・日本語学習、文化・社会に関するものなど

内容・日付	番号	どれに関係がありますか?
① _____	_____	① 日本語・語彙 (例: 若者文化に関する新聞記事、自分で作った単語リスト)
② _____	_____	② 聞くこと・読むこと (例: ニュースの要約、新聞の読み方チェック)
③ _____	_____	③ 話すこと・書くこと (例: 発表のための写真、メモ、アイデアマップ、発表の評価シート)
④ _____	_____	④ 文化・社会 (例: 日本で食べた料理の写真、パンフレット、チケット)
⑤ _____	_____	⑤ 他の人に見せたいもの (例: 学習者に見せるために買ったもの)
⑥ _____	_____	
⑦ _____	_____	

(2) 教授法に関するもの

内容	日付
① _____	_____
② _____	_____
③ _____	_____

成果物

言語的・文化的体験の記録 「日本での体験と学び」

にほん たいけん まな しゅうめ
日本での体験と学び<1週目>

研修参加者番号 ____ クラス ____

なまえ
名前: _____

日本語や日本語の使い方

① 1/23(水)~1/27(日)

①日本語や日本語の使い方について、気づいたこと・考えたこと

*もっと書きたいときに、書いてください。

文化や社会

②文化・社会(日本文化やその他の国の文化)について、驚いたこと・
困ったこと・おもしろいと思ったこと・気づいたこと

教え方・自分の学生に伝えたいこと

③自分の学習者のために役立つ教え方・自分の学習者に教えたい
こと

気になった語彙

あたら 新たに
新しく学んだことは、表現

④私の好きな日本語の勉強方法・ほかの人にも紹介したいよい学習方法

日本語の勉強法・紹介したい学習方法



短期研修における日本語授業

- 総合日本語

トピックに基づく技能統合型の授業

レベルによるクラス分け

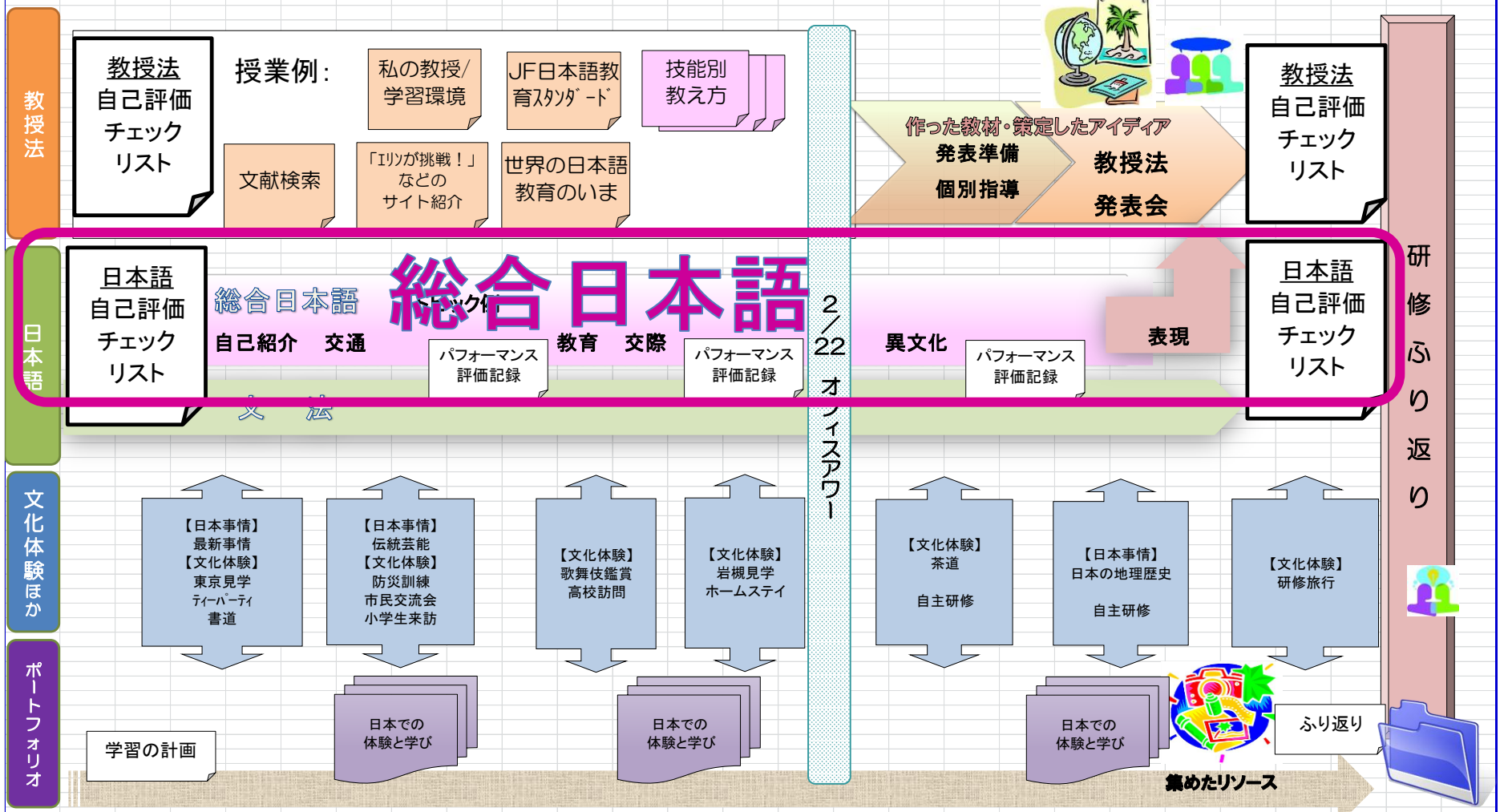
例： 自分・家族、旅行・交通、交際

- 文法

総合日本語の位置づけ

2012短期研修（冬期）全体マップ

- 研修の目標
- 教授法や教材に関する情報や知識を整理する。他の教師との協働の中で、新しい視点や方法などの活用の仕方を考える。自身の教授活動をふり振り返り改善する。【教授法】
 - 日本語の知識を整理する。日本語運用力の向上を図る。【日本語】
 - 日本の社会や文化を実際に体験し、日本に対する理解を深める。他者の文化を理解し尊重できるような多文化理解能力を養成する。【日本事情・文化体験プログラム】
- ⇒ 研修成果を帰国後も発展させ、教育上の問題解決に取り組み自身の授業を改善できる力を養成する。



「自己評価チェックリスト」

全体的な日本語運用力を自己評価により俯瞰

日本語国際センター 2012年夏短期研修 日本語3クラス 自己評価チェックリスト 目標 B2.1 研修生番号: 名前:		(上)研修のはじめ (下)研修の終わり				(上)研修のはじめ (下)研修の終わり								
		I ① できない ② 難しいができる ③ 簡単にできる		II 特に目標にしたい		I ① できない ② 難しいができる ③ 簡単にできる		II 特に目標にしたい						
B2.1		C1												
コミュニケーション能力	受容	聞くこと	聞くこと				聞くこと				聞くこと			
		一般的な全般的	標準語なら、長い話や複雑な議論でも、話の要点や流れが理解できる。				一般的な全般的				内容や構造がはっきりしていない場合でも、長い発話を理解できる。特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならないが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話も充分理解できる。			
		読むこと	読むこと				読むこと				読むこと			
		一般的な全般的	適切な参考資料を使い、さまざまな目的やテキストに応じて読むスピードや読み方を変えながら、だいたい一人で読むことができる。(広い語彙力があるが、あまり使われない慣用語にはてこずることがある。)B2				一般的な全般的				長くて複雑なテキストでも、難しい節を繰り返して読めるのであれば、自分の専門に關係がなくても、中身を詳細に理解できる。			
		視聴	視聴				視聴				視聴			
		テレビや映画を見る	たいのテレビのニュースや時事問題の番組を理解できる。標準的な言葉遣いのドキュメンタリー、生のインタビュー、トークショー、演劇、大部分の映画を理解できる。				テレビや映画を見る				かなりの数の俗語や慣用表現のある映画が理解できる。			
		方略	方略				方略				方略			
		意図を推測する	文脈上の手がかりから自分の理解が合っているかどうか、確かめることができる。B2				意図を推測する				文脈上の文法的、語彙的手がかりから、相手の態度や気持ち、意図を推測できる。			
生産	発信	話すこと	話すこと				話すこと				話すこと			
		一般的な全般的	関心がある話題や、自分の専門分野について、わかりやすく詳しいスピーチ原稿を作成し、プレゼンテーションができる。具体例をあげたり、関連する事柄と比較したりしながら、伝えたいことを明確に詳しく述べる事ができる。				一般的な全般的				複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論にもっていくことができる。			
		書くこと	書くこと				書くこと				書くこと			
一般的な全般的									複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持ったテキストを書くことができる					

パフォーマンス評価

口頭発表、会話、インタビュー、作文…

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	インタビューの簡単な内容について、短いプレゼンテーションができる。	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べることができた。	はっきりと構成がある説明を付けた。
意見の伝え方	意見を述べることができた。	意見や主張したいことについて、理由や根拠を説明できた。	述べたい点のある内容をよく論じることができた。
話の進め方	接続表現（「そして」「しかし」「だから」など）を使って、簡単な文をならべて話した。まとまりは、あまりはっきりしなかった。	まとまりがはっきりしていた。構成はシンプルだった。	文と文、段落と段落の構成が明確だった。
流暢さ	言い直したり言いかえたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。	文法やことばをまちがえた時、少し時間があったり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。	だいたい一定の速さで、スムーズに話せた。
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうが良いと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。	ことばがとても適切だった。同じことばを何度も使うことが少なかった。

発表評価シート

名前 ()

発表のテーマ:

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	インタビューした内容について、簡単な質問や答えを述べることができた。	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べることができた。	聞き手がストレスを感じないように話すことができた。また、要点に、関係のある説明を付け加えながら話すことができた。
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。
流暢さ	言い直したり言いかわたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。	文法やことばをまちがえた時、少し時間があったり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。	だいたい一定の速さで、スムーズに話せた。
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうが良いと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。	ことばがとても適切だった。同じことばを何度も使うことが少なかった。
文法	ときどき、まちがえや疑問もあったが、言いたいことがわかるぐらいは正しく、初級以上の文法を使うことができた。	初級の文法は、大体正しく使うことができた。言いたいことがよくわかるように話せた。	初級の文法は正確で、中級レベルの文法も使うことができた。
話の進め方	接続表現（「そして」「しかし」「だから」など）を使って、簡単な文をならべて話した。まとまりは、あまりはっきりしなかった。	まとまりがはっきりしていた。構成はシンプルだった。	文と文、段落と段落の関係を考えた体系的な構成だった。
意見の伝え方	意見を述べることができた。	理由や根拠を交えて、意見や主張したいことを明確に伝えることができた。	いろいろなケースの理由や根拠を整理したり、いろいろな意見に対する賛成・反対を整理したりした上で、自分の見方、考え方を伝えることができた。

よくできたこと:

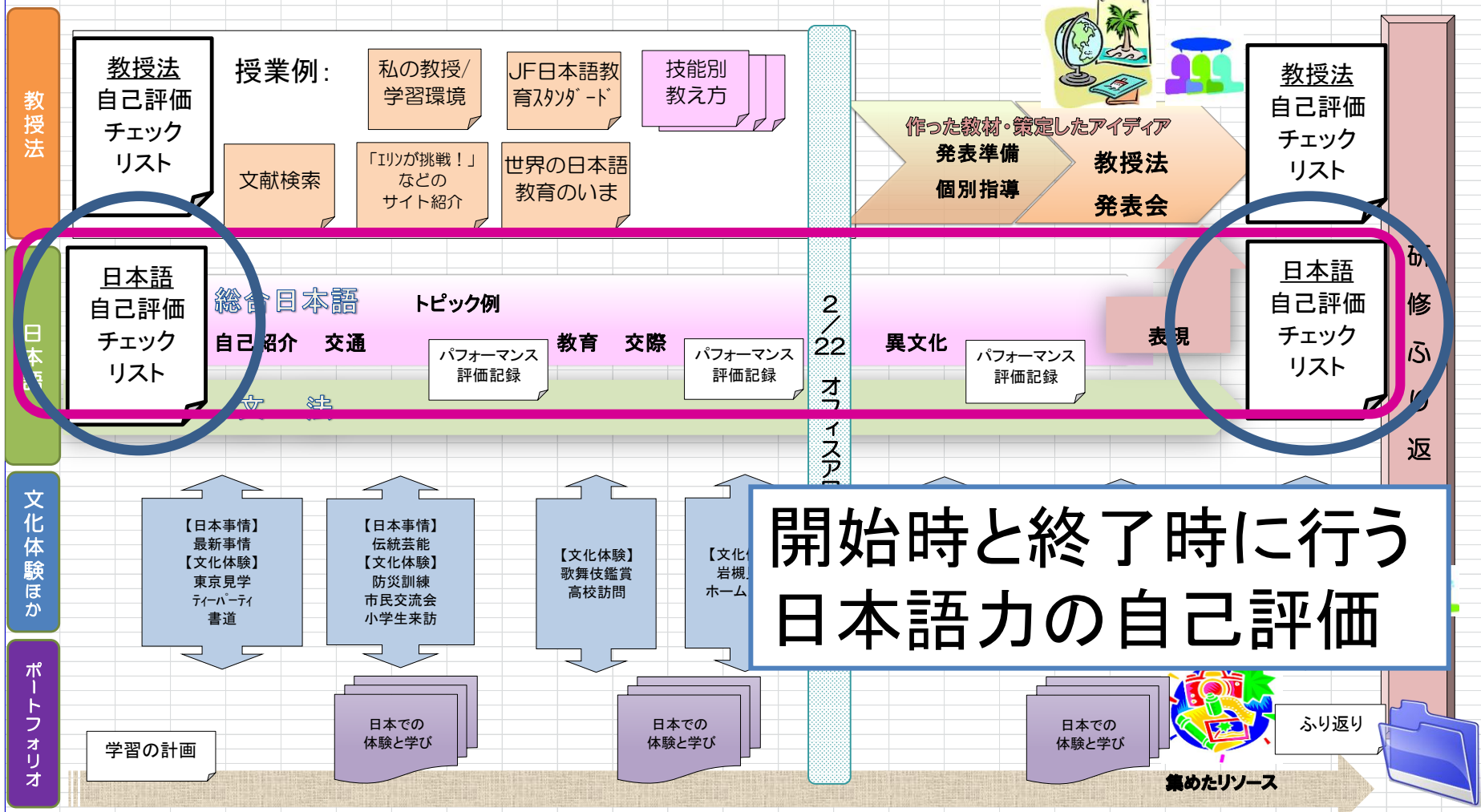
つぎのスピーチや発表で気をつけたいこと:

3.「自己評価チェックリスト」

「自己評価チェックリスト」の位置づけ

2012短期研修（冬期）全体マップ

- 研修の目標
- 教授法や教材に関する情報や知識を整理する。他の教師との協働の中で、新しい視点や方法などの活用の仕方を考える。自身の教授活動をふり振り返り改善する。【教授法】
 - 日本語の知識を整理する。日本語運用力の向上を図る。【日本語】
 - 日本の社会や文化を実際に体験し、日本に対する理解を深める。他者の文化を理解し尊重できるような多文化理解能力を養成する。【日本事情・文化体験プログラム】
- ⇒ 研修成果を帰国後も発展させ、教育上の問題解決に取り組み自身の授業を改善できる力を養成する。



なぜ自己評価か

- 学習者中心の言語教育 (Nunan(1998))
⇒ 教師中心の評価から学習者中心の評価へ
cf.「学習者のオートノミー」

トムソン(2008)p27

- JFスタンダードの基本的な考え方
⇒「学習者中心」、「自立した学習者」

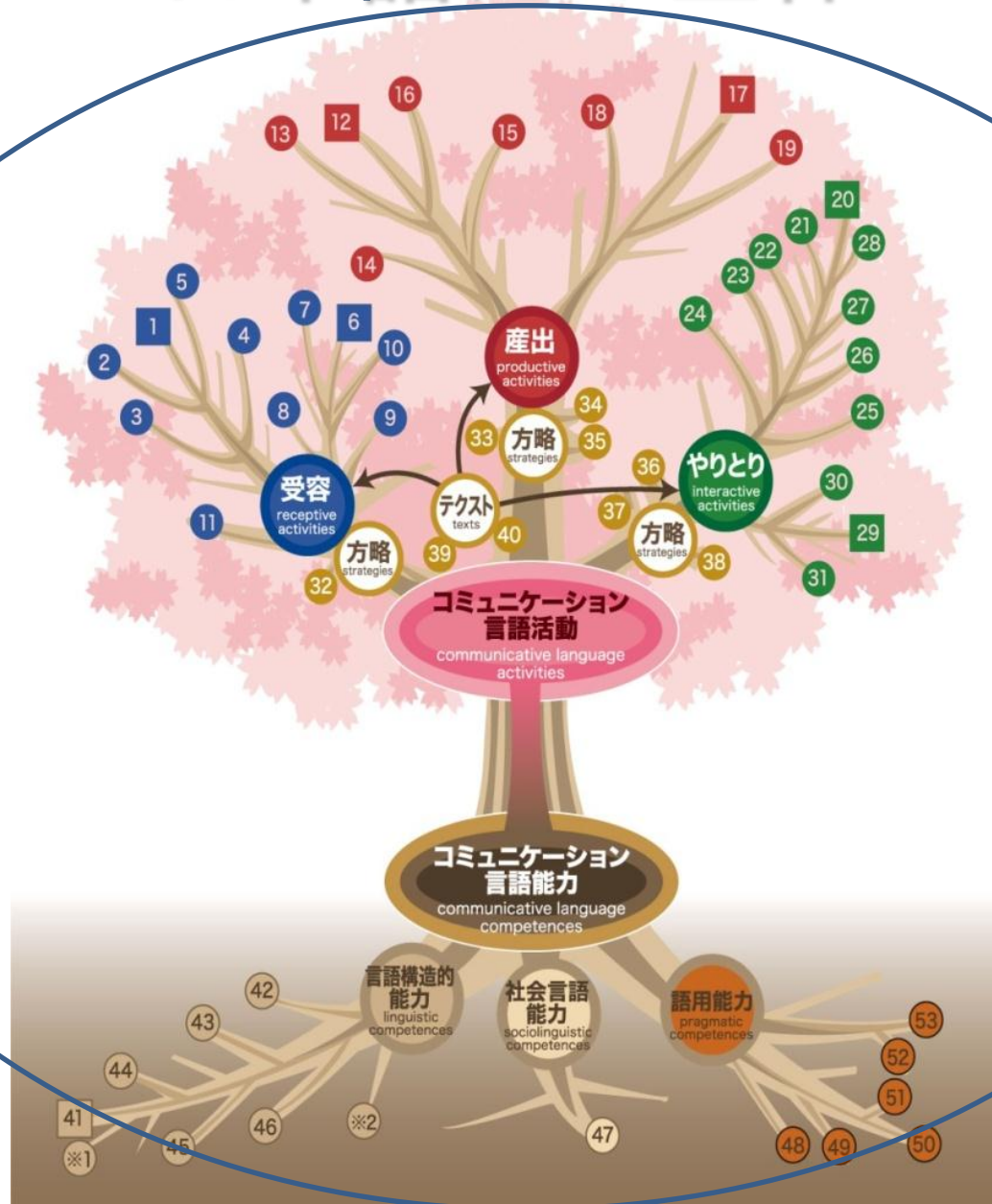
国際交流基金(2010)p35

- 形成的評価

「自己評価チェックリスト」の目的

- 授業の目標、活動内容、評価方法の明確化
- JFスタンダードという枠組みの中での自己の日本語運用力の把握
- 研修参加者の達成感の増大

日本語力の全体



「自己評価チェックリスト」 サンプル(資料2)

資料2:自己評価チェックリスト サンプル		(上)研修のはじめ (下)研修の終わり	
日本国際センター 20××年 短期研修 日本語 ×クラス		① できない	② できるようになる
自己評価チェックリスト 目標 B2.1 研修参加者番号: 名前:			
B2.1			
コミュニケーション言語活動	聞くこと 全般	標準語なら、長い話や複雑な話でも、話の要旨や流れが理解できる。	
	話すこと 全般		
	読むこと 全般		
	テレビや映画を見る	たいていのテレビのニュースや時事問題の番組を理解できる。標準的な言葉遣いのドキュメンタリー、生のインタビュー、トークショー、演劇、大部分の映画を理解できる。	
	文脈を把握する	文脈上の手がかりから自分の理解が合っているかどうか、確かめることができる。	
	話す		
	書く		
	読む		
	書く		
	書く		
やりとり	話し相手のやりとり		
	書き相手のやりとり		
	書く		
	文法や文法規則	文法を使いこなす力は比較的高く、誤解されるような間違いは少ない。	
	書き	はっきりとした、自然な発音やイントネーションを身につけている。	
社会生活能力	社会生活能力	言語化する際に適切な表現を犯さず、いろいろな場面でも自分自身の述べたいことを表現することができる。	
	意思疎通能力	関連する詳しいことや、具体例などで、自分の述べたいことを補強して、明快地指事や話をするができる。	
	意思疎通能力	ある程度の流暢さで、素直なく自然に、母語話者と普通にやり取りができる。	

コースのレベル、扱う活動を見て必要なCan-doを選ぶ必要であれば、やさしい言い方にする。

「自己評価チェックリスト」の実際-詳細①

ねんなつたん きけんしゅう 日本語国際センター 2012年夏短期研修 日本語3クラス 自己評価チェックリスト もくひょう 目標 B2.1 研修生番号： 名前：		(上)研修のはじめ (下)研修の終わり				
		I		II		
		① できない	② 難しいができる	③ 簡単にできる	特 に 目 標 に し た い	
B2.1						
コ ム ニ カ シ ョ ン		き 聞くこと				
	き 聞くこと ぜんばん 全般	ひょうじゅんご 標準語なら、 なが 長い話や はなし 複雑な ふくざつ 議論でも、 ぎろん 話の要点や はなし 流れが ようてん 理解できる。 なが りかい				
		よ 読むこと				

「自己評価チェックリスト」の実際-詳細②

コミュニケーション言語活動	受容	視聴					
		テレビや映画を見る	たいていのテレビのニュースや時事問題の番組を理解できる。標準的な言葉遣いのドキュメンタリー、生のインタビュー、トークショー、演劇、大部分の映画を理解できる。				
		方略					
		意図を推測する	文脈上の手がかりから自分の理解が合っているかどうか、確かめることができる。				
	産出（一人で）	話す					
				コースのレベル、扱う活動を見てで必要なCan-doを選ぶ 必要であれば、やさしい言い方にする。			
		書く					
		方略					
	やりとり	話し言葉のやりとり					
書き言葉のやりとり							

「自己評価チェックリスト」の実際-詳細③

コミュニケーション言語能力		ほうりやく 方略			
	ぶんぽうてき 文法的 せいかく 正確さ	ぶんぽう つか ちから ひかくてき たか ごかい まちが 文法を使いこなす力は比較的高く、誤解されるような間違いはしない。			
	おんそ 音素	しぜん はつおん み はっきりとした、自然な発音やイントネーションを身につけている。			
	しゃかいげん 社会言 ごてき 語的な てきせつ 適切さ	げんごか さい しんこく あやま おか ばめん じぶん じしん の 言語化する際に深刻な誤りを犯すことなく、いろいろな場面で自分自身の述べ たいことを表現することができる。			
	わだい 話題の てんかい 展開	関連する詳しいことがらや、具体例などで、自分の述べたいことを補強して、明 快に描写や話をすることができる。			
	りゅうちよう 流暢さ	ある程度の流暢さで、無理なく自然に、母語話者と普通にやり取りができる。			

「自己評価チェックリスト」の作成①

ステップ1

コースの目標やレベルに合う言語活動や言語能力を考える

ステップ2

「Can-do」を選ぶ（「みんなの「Can-do」サイト」を利用）

「自己評価チェックリスト」の作成②

ステップ3

実際に授業で取り上げる「Can-do」の決定

ステップ4

必要に応じ「Can-do」を理解しやすい形や授業に合う形に書き換える（「MY Can-do」の作成）

ステップ5

フォーマットに加工する

別バージョンの「自己評価チェックリスト」①

 日本語国際センター 2012年夏短期研修 日本語3クラス 自己評価チェックリスト 目標 B2.1 研修生番号： 名前：		(上)研修のはじめ (下)研修の終わり				(上)研修のはじめ (下)研修の終わり								
		I ① できない	II ② 難しいができる	I ③ 簡単にできる	II 特に 目標にしたい	I ① できない	II ② 難しいができる	I ③ 簡単にできる	II 特に 目標にしたい					
		B2.1				C1								
受容	聞くこと	聞くこと 全般						聞くこと	内容や構造がはっきりしていない場合でも、長い発話を理解できる。特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならないが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話も充分理解できる。					
	読むこと	読むこと 一般的な読解						読むこと	読むこと 一般的な読解					
	視聴	視聴						視聴	視聴					
	テレビや映画を見る	テレビや映画を見る						テレビや映画を見る	テレビや映画を見る					
	方略	方略						方略	方略					
	意図を推測する	意図を推測する						意図を推測する	意図を推測する					
コミュニケーション言語活動 産出(一人です)	話すこと	話すこと 全般						話すこと	話すこと 全般					
	書くこと	書くこと 全般						書くこと	書くこと 全般					
	書くこと	書くこと 全般						書くこと	書くこと 全般					

別バージョンの「自己評価チェックリスト」②

国際交流基金日本語国際センター 2012年度春短期研修

総合日本語 4クラス 自己評価チェックリスト



研修参加者番号： 名前：

研修の開始時と終了時の自分の日本語力のレベル(B1、B2.1)を書いて下さい。またサブレベル(下：やや難しいができる、中：できる、上：余裕をもってできる)に○をして下さい。

研修開始時

レベル： サブレベル：下、中、上

研修終了時：

レベル： サブレベル：下、中、上

B1	B2.1
自分の関心ある分野について、ほどほどの流暢さで、ポイントをつながけながら、簡単な叙述やプレゼンテーションができる。(CEF・口頭での産出活動(話すこと)-5) (Can reasonably fluently sustain a straightforward description of one of a variety of subjects within his/her field of interest, presenting it as a linear sequence of points.[CEF-2001])	自分の関心分野の話題について、補足や事例を挙げつつ持論を展開・補強し、明瞭かつ詳細な叙述やプレゼンテーションをすることができる。(CEF・口頭での産出活動(話すこと)-4) (Can give clear, detailed descriptions and presentations on a wide range of subjects related to his/her field of interest, expanding and supporting ideas with subsidiary points and relevant examples.[CEF-2001])

別バージョンの「自己評価チェックリスト」③

								研修参加者番号: 名前:	
								自己評価	
		B1		B2		C1		研修開始時 研修終了時	
								レベル	サブレベル
								レベル	サブレベル
								判断理由	
理解すること	聞くこと	馴染みのある事柄や簡潔できちんと構成されているプレゼンテーションなら、自分の専門分野の講義や話を理解できる。		内容的・言語的に複雑であっても、講義、話、報告、その他の学術的/専門的なプレゼンテーションの要旨は理解できる。		たいていの講義、ディスカッション、議論・論戦が比較的容易に理解できる。			
	読むこと	身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる。(CEFR B1.1 情報や要点を読み取る) Can recognise significant points in straightforward newspaper articles on familiar subjects.		筆者が特別の立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。(CEFR B2 情報や要点を読み取る) Can understand articles and reports concerned with contemporary problems in which the writers adopt particular stances or viewpoints.		長くて複雑なテキストでも、難しい節を繰り返して読めるのであれば、自分の専門に関係がなくても、 <u>中身を詳細に</u> 理解できる。(CEFR C1 読むこと全般) Can understand in detail lengthy, complex texts, whether or not they relate to his/her own area of speciality, provided he/she can reread difficult sections.		()	上 中 下
								()	上 中 下
話すこと	一人で話す	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができる。(CEFR B1 産出・講演やプレゼンテーションをする) Can give a prepared straightforward presentation on a familiar topic within his/her field which is clear enough to be followed without difficulty most of the time, and in which the main points are explained with reasonable precision.		はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーションができる。その際重要な要点や、関連する詳細事項を補足的に強調することができる。(CEFR B2.2 産出・講演やプレゼンテーションをする) Can give a clear, systematically developed presentation, with highlighting of significant points, and relevant supporting detail.		複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる。補助事項、理由、関連事例を詳しく説明し、論点を展開し、立証できる。(CEFR C1 産出・講演やプレゼンテーションをする) Can give a clear, well-structured presentation of a complex subject, expanding and supporting points of view at some length with subsidiary points, reasons and relevant examples.		()	上 中 下
								()	上 中 下
	会話する	発音が明瞭で標準的な話し方であるなら、日常的に行われるミーティングなどでの慣れたテーマについて、事実関係の情報や指示のやり取りをしたり、問題解決のための話し合いに参加したりすることができる。		自分の考えや意見を的確に表現できる。込み入った議論において説得力をもって自分の見解を表明したり受け答えすることができる。		質問やコメントに受け答えしたり、込み入った議論に対し、淀みなく自然かつ的確に反応し、説得力のある反論を展開させることができる。			
	書くこと	短い個々の要素を関連付けて流れにし、自分の関心がある身近な話題について簡潔でまとまりのあるテキストを書くことができる。		自分が関心のある専門分野の多様な話題について、様々な情報や議論を取捨選択し、明瞭で詳細なテキストを書くことができる。		複雑な話題について、明瞭できちんとした構成のテキストを書くことができる。			
	テキスト処理	いくつかの情報源からの短い断片的な情報を他人のために要約することができる。		意見、議論、論議を含んでいるニュース、インタビュー、ドキュメンタリーから抽出したものを要約することができる。		長く、高度な技能を要する難しいテキストを要約することができる。			

4. パフォーマンス評価 - 口頭発表の評価 -

研修における位置付け

2012短期研修（冬期）全体マップ

研修の目標

- 教授法や教材に関する情報や知識を整理する。他の教師との協働の中で、新しい視点や方法などの活用の仕方を考える。自身の教授活動をふり振り返り改善する。【教授法】
 - 日本語の知識を整理する。日本語運用力の向上を図る。【日本語】
 - 日本の社会や文化を実際に体験し、日本に対する理解を深める。他者の文化を理解し尊重できるような多文化理解能力を養成する。【日本事情・文化体験プログラム】
- ⇒ 研修成果を帰国後も発展させ、教育上の問題解決に取り組み自身の授業を改善できる力を養成する。

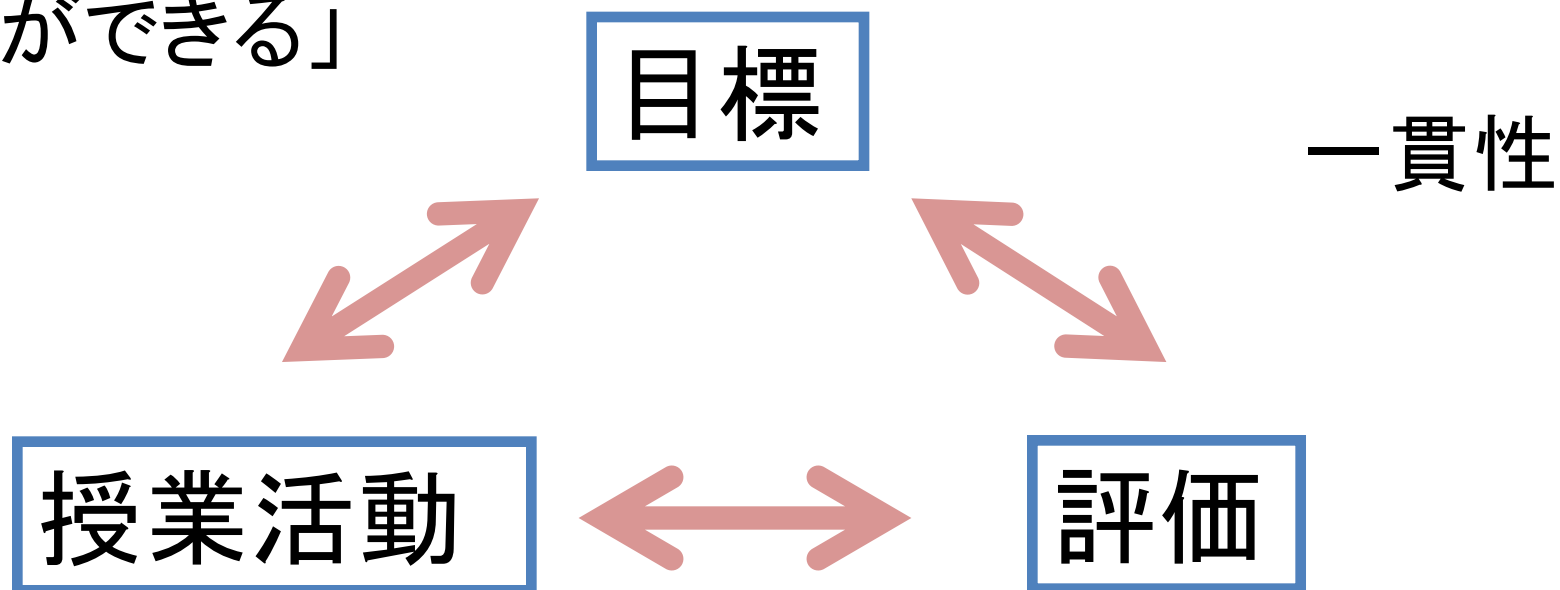


パフォーマンス評価とは

- 「～ができる」 直接評価
(⇔間接評価 例：多肢選択)
- この報告で扱うパフォーマンス評価
 - 現実世界に結びついた
 - ある特定のタスクにおいて表れた
 - 言語パフォーマンスの評価例：口頭発表をする、メールを書く、など
- 評価基準を設定
目標が達成できたかどうかを判断する根拠

研修でパフォーマンス評価を行う理由

「～ができる」



(研修全体の場合は
カリキュラム)

「自己評価チェックリスト」と パフォーマンス評価

自己評価チェックリスト	パフォーマンス評価
全体的	部分的
一般的	具体的な話題・場面のあるタスク (主にJF Can-doを元に作成)
自己評価	自己評価・ピア評価・ 教師によるフィードバック

具体的な評価のデザイン

目標

- レベル設定
- 目標設定

授業活動

- インプット→アウトプット
- パフォーマンス課題

評価

- 評価基準(ルーブリック)の作成
- 評価シート(実際に記入するもの)の作成

口頭発表の評価の例

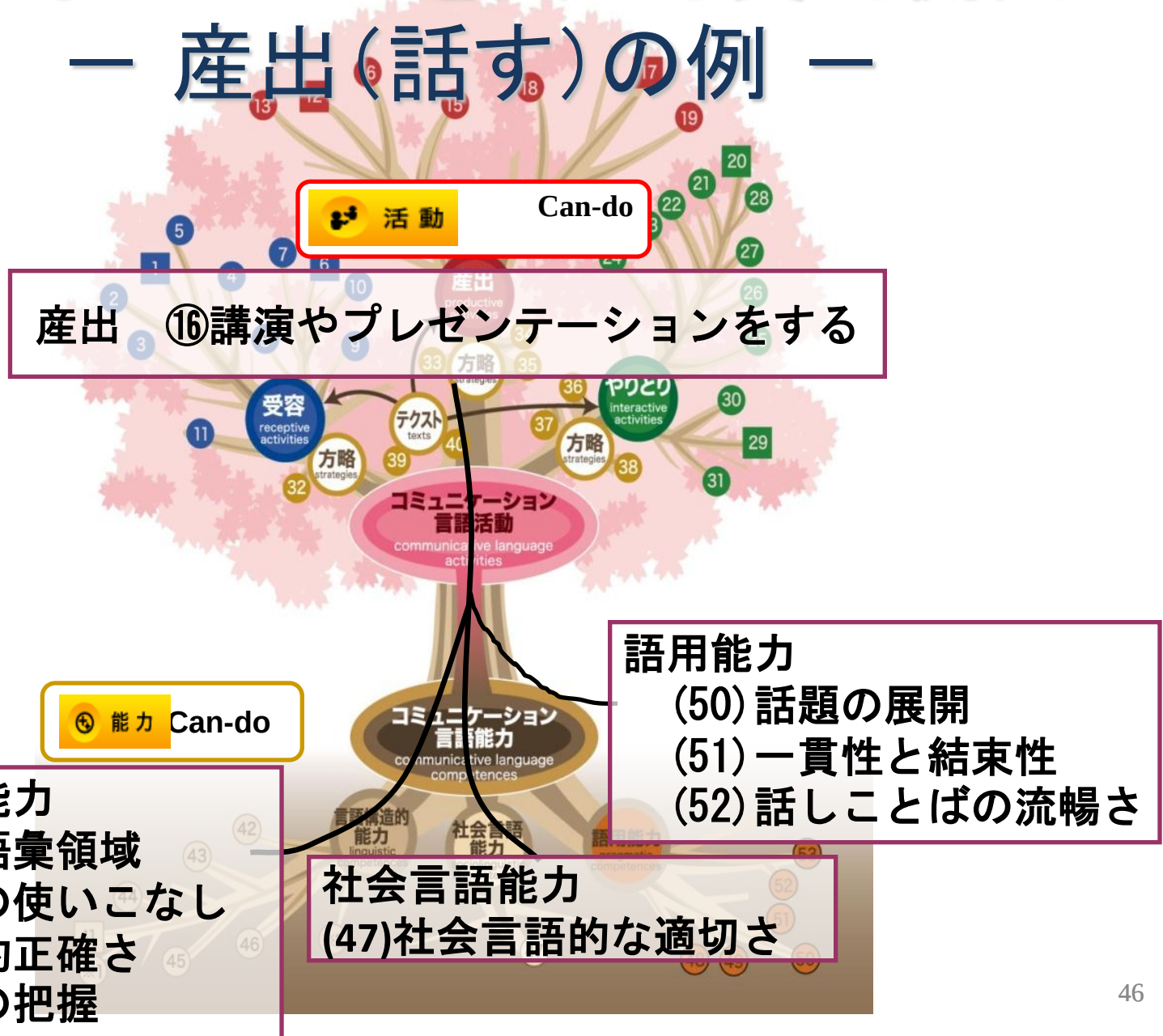
- タスク

職業観について日本の大学生にインタビューした結果を元に、自分の考えを含めた、短い簡単な発表をすることができる。

- 評価基準
(資料3)

	もう少し！	できた！	素晴らしい！
活動	インタビューした内容について、簡単な言葉で述べる事ができた。	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べる事ができた。	聞き手がストレスを感じないように話すことができた。また、要点に、関係のある説明を付け加えながら話すことができた。
意見の伝え方	意見を述べる事ができた。	理由や根拠も交えて、意見や主張したいことを明確に伝える事ができた。	いろいろなケースの長所や短所を整理したり、いろいろな意見に対する賛成・反対を整理したりした上で、自分の見方、考え方を伝える事ができた。
話の進め方	接続表現(「そして」「しかし」「だから」など)を使って、簡単な文をならべて話した。まともりは、あまりはっきりしなかった。	まとまりがはっきりしていた。構成はシンプルだった。	文と文、段落と段落の関係を考えた体系的な構成だった。
流暢さ	言い直したり言いかえたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。	文法やことばをまちがえた時、少し時間があいたり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。	だいたい一定の速さで、止まらずに話すことができた。
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうがいいと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。	ことばがとても豊かだった。同じことばを何度もくり返さないように、いろいろな表現を使うことができた。
文法	ときどき、まちがいや混同もあったが、言いたいことがわかるぐらい正しく、初級の文法を使うことができた。	初級の文法は、大体正しく使うことができ、言いたいことがよくわかるように話せた。	初級の文法は正確で、中級レベルの文法も使うことができた。

パフォーマンスを支える質的側面 － 産出(話す)の例 －



評価の観点と達成度(資料3) B1目標

評価の観点

	もう少し！	できた！	素晴らしい！
活動	インタビューの簡単な内容について、短いプレゼンテーションができる。	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べることができた。	はっきりと構成のしつかりしたプレゼンテーションができた。また、要点に、関係のある説明を付け加えながら話すことができた。
意見の伝え方	意見を述べることができた。	根拠を挙げて意見を述べることができた。	述べたい点をうまく強調し、重要な関連のある内容をくわしく述べて、わかりやすく論じることができた。
話の進め方	接続表現(「そして」「しかし」「だから」など)を使って、簡単な文をならべて話した。まとまりは、あまりはっきりしなかった。	まとまりがはっきりしていた。構成はシンプルだった。	文と文、段落と段落の関係を考えた体系的な構成だった。
流暢さ	言い直したり言いかえたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。	文法やことばをまちがえた時、少し時間があいたり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。	だいたい一定の速さで、止まらずに話すことができた。
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうが良いと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。	ことばがとても豊かに言いたいことを述べていた。同じことばを何度もくり返さないように、いろいろな表現を使うことができた。

達成度

元になったCan-do(資料4) B1目標

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	CEFR【講演やプレゼンテーションをする：A2.1】身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。	CEFR【講演やプレゼンテーションをする：B1】自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。 JF【経験や物語を語る：B1】自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる。	CEFR【講演やプレゼンテーションをする：B2.2】はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーションができる。その際重要な要点や、関連する詳細事項を補足的に強調することができる。
意見の伝え方		CEFR【論述する：B1.2】意見、計画、行動について短い理由や説明ができる。	CEFR【論述する：B2.1】適切に要点を強調し、重要な関連のある補足事項を詳しく取り上げて、整然と論拠を展開できる。
話の進め方	CEFR【一貫性と結束性：A2.1】“and”“そして”、“but”“しかし”、“because”“～だから”のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけることができる。	CEFR【一貫性と結束性：B1】短め、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりをつけることができる。	CEFR【一貫性と結束性：B2.2】複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合語を効果的に使うことができる。
流暢さ	CEFR【話しことばの流暢さ：A2.2】話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる。	CEFR【話しことばの流暢さ：B1.2】自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発話を続けることができる。	CEFR【話しことばの流暢さ：B2.1】比較的一定の速さを保って発話を行うことができる。言い方の型や表現を探す際に詰まることがあっても、目立って長い間があくことは少ない。
発音	CEFR【音素の把握：A2】話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体的場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。	CEFR【音素の把握：B1】時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。	CEFR【音素の把握：B2】はっきりとした、自然な発音とイントネーションを身につけている。
ことば・表現	CEFR【使える言語の範囲：A2.2】たいいていの場合、言いたいことを内容的に妥協・制限したり、言葉を探したりする必要があるが、予測可能な日常的な状況に本人が対応するために必要な、基本的な言語のレパートリーを持っている。	CEFR【使える言語の範囲：B1.1】(略)語彙的な幅の狭さのために発言内容に繰り返しが生じたり、なかなか内容を言語化できなかったりすることもあるが、多少詰まったり回りくどかったりはしても、家族や趣味や、興味のあること、仕事、旅行、そして時事問題などについて、述べることができるだけの語彙を持っている。	CEFR【使える言語の範囲：B2.2】自分自身が言いたいことを明確に述べることができ、その内容を制限している感じを与えることはそれほどない。

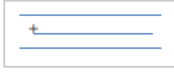
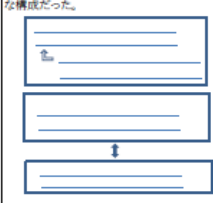
評価基準を元に評価シートを作成

- 直接書き込むシート
ピア評価
自己評価
教師による評価
-
- チェックが容易
- コメント欄

発表評価シート

名前 ()

発表のテーマ :

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	インタビューした内容について、簡単な言葉で述べる事ができた。 ☐	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べる事ができた。 ☐	聞き手がストレスを感じないように話すことができた。また、要点に、関係のある説明を付け加えながら話すことができた。 ☐
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。 ☐	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。 ☐	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。 ☐
流暢さ	言い直したり言いかえたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。 ☐	文法やことばをまちがえた時、少し時間があいたり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。 ☐	だいたい一定の速さで、止めずに話すことができた。 ☐
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうがいいと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。 ☐	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。 ☐	ことばがとても豊かだった。同じことばを何度もくり返さないように、いろいろな表現を使うことができた。 ☐
文法	ときどき、まちがいで疑問もあったが、言いたいことがわかるぐらい正しく、初級の文法を使うことができた。 ☐	初級の文法は、大体正しく使うことができ、言いたいことがよくわかるように話せた。 ☐	初級の文法は正確で、中級レベルの文法も使うことができた。 ☐
話の進め方	接続表現（「そして」「しかし」「だから」など）を使って、簡単な文をならべて話した。まともな、あまりはっきりしなかった。  ☐	まともなものがはっきりしていた。構成はシンプルだった。  ☐	文と文、段落と段落の関係を考えた体系的な構成だった。  ☐
意見の伝え方	意見を述べる事ができた。 ☐	理由や根拠も交えて、意見や主張したいことを明確に伝えることができた。 ☐	いろいろなケースの長所や短所を整理したり、いろいろな意見に対する賛成・反対を整理したりした上で、自分の見方、考え方を伝えることができた。 ☐

よくできたこと :

つぎのスピーチや発表で気をつけたいこと :

発話サンプル

- タスク内容：日本での異文化体験について発表メモを作成し、それを見ながら3分～5分程度の口頭発表を行う
- 目標（A2.1 産出-講演やプレゼンテーションをする）：身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。
- 評価：「すばらしい！」
根拠：理由 比較 発音

5. 成果と課題

成果①

自己評価チェックリスト

- JFスタンダードという枠組みで自分の運用力の特徴が把握しやすくなった
- 研修参加者の主体的な学習の深化が見られた

パフォーマンス評価

- 自分のパフォーマンスの質について、より詳細に意識できるようになり、自身の課題が把握できるようになった

成果②

短期研修全体

- 目標・授業活動・評価の一貫性が増した
- 教師間の共通の言語ができた
目標、評価の観点、レベル...
- 研修参加者のレベルに合った課題設定が容易になった
- 研修参加者の自己評価能力が向上した
(他者の評価→モニター能力)

課題①

自己評価チェックリスト

- 文化的差異による自己評価の違い(過大評価、過小評価)
⇒ パフォーマンス評価におけるピア評価、教師のコメント
- 教師の評価を望む声
- 予測に基づく自己評価の精度の問題

パフォーマンス評価

- タスクごとに評価基準の作成が必要 ⇔ 一般化

課題②

短期研修全体

- 評価のシステムについて研修参加者の理解を図るために時間や工夫が必要
⇒ 講師自身が意義を理解し、継続的に働きかけることが重要
- 研修ごとの特徴に合わせた評価のあり方
↓
機関として標準化した評価のあり方

課題③

- Can-doに関する課題
 - ① Can-doの数が多いため検索や選択が難しい
 - ② カテゴリーやCan-doの中にはレベルが連続していないものがある
 - ③ レベルの特徴を保ちつつ「My Can-do」を作るには技術が必要
 - ④ 漢字など日本語特有の問題が整理されていない
 - ⑤ 現時点でC1,C2レベルのCan-doが少ない
⇒ 開発の必要性